

に対面して美辞麗句を並べても、マスク姿では、顔の表情が伺えない、心の内が見えない。自分に好意的なのか、不快感を持っているかさえ読めない事態も起こり得るというわけです。

長かった第三波が収束し、緊急事態宣言も解除されました。待望のワクチン投与も始まり、本年度末頃には終息することも見えてきました。今しばらく、この難局を乗り切る心構えをどうするか？ 私は全員が「自律自助の精神」で創意工夫を凝らすことだと考えています。

私は昨年の吟詩日本春季号で、関吟がこのピンチを乗り越えて、再び発展の道に進む為には、会員一人一人が明治維新を為し遂げた志士達に倣って「自律自助の精神の発揚」が大事だと申し上げました。押し寄せる西欧列強国の侵略を阻止し、幕政改革を成し遂げ日本を近代国家に生まれ変わらせたのは、自分を顧みず草莽崛起して、国の為に献身的な努力を重ねてきた結果であります。今まさに新型コロナウイルス感染症という国難に遭遇した私たちはいかに詩歌吟詠の普及活動を続けるか、まさに一丸と

なって「自律自助の精神」を発揮し、活力ある毎日を目指したいものです。総本部の目指す方向は、各地区各会そして各支部教室教場の課題であり、究極は会員一人一人の課題であります。先ずは、自分自身のヤル気・情熱の火を消さないこと、気持ちを含めて知恵と真心をもつてやること。変えられないものは静かにこれを受け止め、変えるべきことに勇気をもつて立ち向かうことだと思います。好い事例も出てきました、全国では工夫して発想を変えて新しい形での教室やお稽古の仕方にトライする動きも出ています。青年部を中心にリモート発表会や研修会など、工夫して楽しい仲間を増やそうという動きもあります。これこそ我が会、我が教室を考えての「自律自助活動」と言えます。私たちは今まで以上に会員同士心の繋がりを大切に、お互いを尊重し合い周りを慮る心で一緒になって頑張らしましょう。会員一人ひとりが主役であり、これこそが「自律自助の精神」であります。会員皆様のご理解とご支援ご協力を切にお願い致します。

以上